



様々な考えを知り、対処の方法を考える

校長 田山 満則

10月11日(月)、スクールカウンセラーの原田先生による2回目の心理教育活動を行いました。保護者の皆様、地域の皆様は、下記の「4本の木のお話」を読まれて、どの木がお好きか考えてみてください。

むかしむかしのお話

丘の上に一樹(かずき)という名前の一本の木が立っていました。

ある夜、はげしい風が吹きました。朝になると、一樹は幹からぽきりと折れていました。

それを見ていた三本の子ども、大樹(だいき)、優樹(ゆうき)、友樹(ともき)は考えました。

どうしたら、嵐が吹き荒れても生き残ることができるだろうか……。

大樹は、根を深く伸ばし、幹を太くして丈夫な木に育ちました。

どんな強い風が吹いても、大樹はびくともしませんでした。

優樹は、柔らかい枝、細い葉をしなやかに伸ばしました。



強い風に、優樹の枝は大きく揺さぶられましたが、嵐が去った後、優樹はまた元のように静かに立っていました。

友樹は、鳥に頼んで、いろいろな木の種を自分の周りに落としてもらいました。

種はやがて芽吹き、いろいろな木がともに生きる森ができました。

嵐は森にも吹きましたが、身を寄せ合って風に耐えた木々は、一本も折れませんでした。

さて、幹から折れた一樹はどうなったのでしょうか。

折れた幹と、その幹にあった枝と葉は枯れて、土になっていきました。

でも、残った株をよく見ると……、あれあれ、小さな芽が出ています。

小さいけれど、みずみずしく生気に満ちた、新しい一樹の誕生です。

○「友樹」が好き

仲間をつくって森にすることで、誰も犠牲にならなかったし、身を寄り添い合える家族のように一緒に生きていけるから。 3年 ○○さん

○「一樹」が好き

折れても、また成長するところ。まだ芽だから無限の可能性がある。 3年 ○○君

○「大樹」が好き

ゴツツくて、太くてりりしいと思ったからです。どれだけ強い風が吹いてもびくともしないとあって、とてもかっこいいと思ったからです。 1年 ○○君

○「優樹」が好き

細かいけど、柔らかかったら折れにくいし、元に戻った時静かに立っている感じが、なんかひかれました。(中略)「優樹」というふわふわっというか、ほんわかしてそうな名前がかわいいなと思ったからです。 1年 ○○さん

災害時に、どのように行動すべきか！

地球温暖化の影響のため、近年、世界各地で豪雨や干ばつや山火事等、自然災害が起きている。日本も例外ではなく、毎年台風や豪雨等による災害が発生しています。



【向き合って土のうを運ぶ生徒】

10月12日(火)、防災士の佐伯欽三様をお招きし、災害ボランティア活動講演会を行いました。佐伯様は、1995年の阪神淡路大震災からボランティア活動を始められ、防災士など数々の資格を取得しながら災害救助活動をされています。

災害が起きた場合、まず、自分の命は自分で守る行動(自助)を行います。次に、中学生には「できる手助け(共助)を考えてほしい。」と言われ、土のう運びの体験を行いました。

目的地までの30mの距離をどうやって運べば効率的に運べるかを生徒会長の阿比留君を中心に考え、行動しました。

講師の佐伯様からは、黙々とやっている、すぐに疲れるので、「次の土のうはちょっと重いよ。」などと声を掛け合い、被災された方の心情に寄り添いながら作業を丁寧に行うことも大切であるというアドバイスをいただきました。

万が一の時、本校生徒も地域の力になることでしょう。



【全体を見回し、指示を出す生徒会長】

文化祭に向けて 順調な仕上がり！



【令和3年度 第47回文化祭について (お願い)】

10月30日(土)文化祭を開催します。本来であれば、多くの地域の皆様にご来校、ご観覧いただきたいところですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご来校いただく人数を以下のとおりとさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いします。

9月の体育祭と同様に、ご家族(錦町・美川町在住にお住まいの親族)4人までとします。